

## 推量表現の使用の動態

—ダロウ類・トオモウ類・否定疑問類を中心に—

文19-147 尾関武尊

### 【目次】

1. はじめに
2. 調査方法
3. 調査結果
4. 考察

# 1. はじめに

## 問題の所在

(論者の内省から)

「あの人は今日役場に行くだろうか」に対して

たぶん行く **だろう** / たぶん行く **やろう** / **そりゃあ**行く **やろう**」

確信度の高い表現で  
より容認度が高い

船木(2017)

約30年の間

『方言文法全国地図』(GAJ) : 1980年代調査

「方言の形成過程解明のための全国方言調査」(FPJD) : 2010年代調査  
を比較

伝統的な推量表現形式が  
減少 ▼

「その他の形式 (否定疑問形式  
やトオモウ型など)」が増加 ▲

▶ 若年層・高年層の世代差および地域差を調査

# 1. はじめに —推量表現とは—

## 意味論的意味

## 語用論的意味

**ダロウ**  
推量：「話し手の想像の中で命題を真であると認識する」こと  
(三宅1995)

●**中央語の使用状況** 【書き言葉】 馮(2019)  
推量の「ダロウ」言い切りが優勢  
【話し言葉】 庵(2009)  
「デショウ(ダロウ)」言い切り ➡ 確認用法に多  
推量では「デショウ」が少 「トオモウ」が多

言い切りでは話し手の判断を表す  
➡ 話し手が一方的に主張を行うニュアンス  
【意見の押付けを避ける方略】  
• 終助詞「ね」の付加：  
心的チェックの表示  
• 「思う」：個人的な判断であると示す  
(安達1997)

**トオモウ**  
個人的な情報の表示  
(文の意味内容が)  
主観的事実 ▶ 主観明示用法  
客観的事実 ▶ 不確定表示用法  
〈ダロウと近似〉 (森山1992)

意見表明という行為のFTA (フェイス脅かし行為) を緩和  
「トオモウ」は「話者の知識状態を表明すること」でFTAを緩和する。  
(牧原2015)

**否定疑問類**  
推測：「話し手の想像の中で命題を、弱い見込みではあるが、真であると認識する」 (三宅1994)

関西方言での否定疑問形式の一つ  
動詞「チガウ」を用いた「ン(ト)チガウ(カ)」  
▶ 〈推測〉を表す (高木2005、松丸2018)

# 2.調査方法

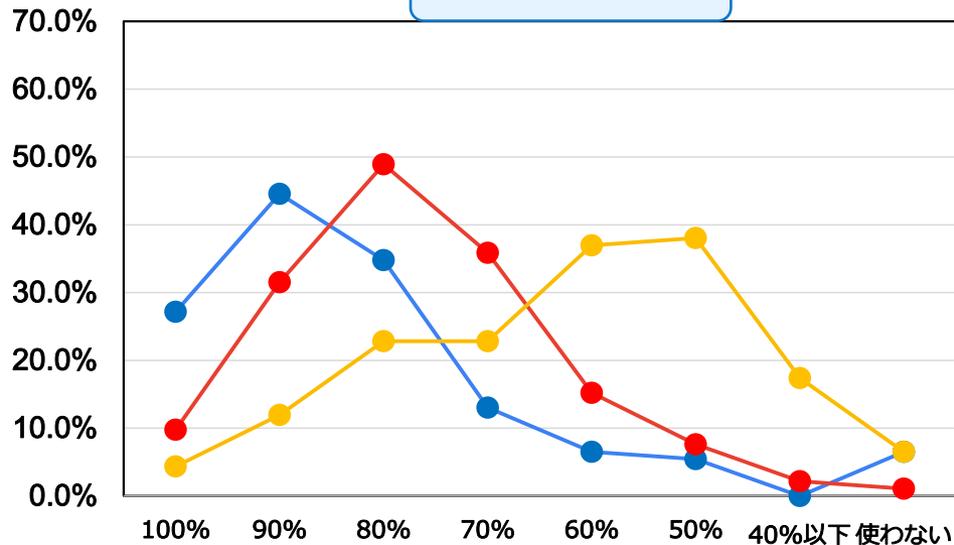
- ① 対象とする文末形式の確信度（事態の実現可能性をどの程度と認識しているか）を尋ねる。
- ② 使い分けに関係すると考えられる条件をもとに4つの場面を設定し、文末形式それぞれを「言う・言わないがおかしくない・言わないしおかしい」か尋ねる。

※高年層には別の場面（公民館での連続講座）を設定

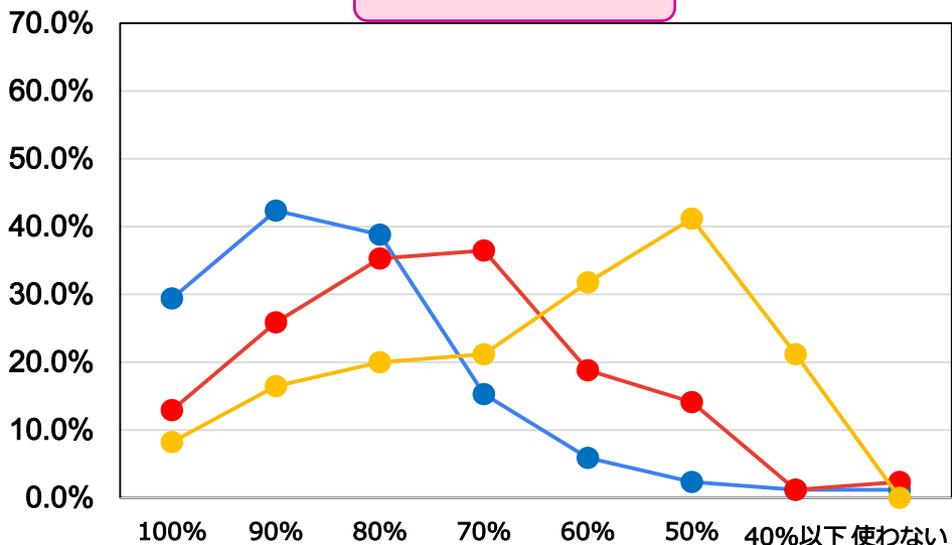
				各形式の選好性の仮説			
	共通場面	個別設定	情報量	可能性	ダロウ類	トオモウ類	否定疑問類
①	登場人物はあなた、Aさん、Bさんです。3人は同じゼミに所属しています。Bさんは今日のゼミに来ませんでした。Aさんから「Bさん、来週は来るかなあ？」と聞かれたときの回答について、選択肢からあてはまるものを選んでください。	Bさんが来週のゼミで発表が当たっている（来る可能性が高い）ことを、あなたもAさんも知っているとき。	均衡	高	○ 容認性は低い	○	△
②		Bさんが普段からゼミをさぼりがちである（来るかどうかははっきりしない）ことを、あなたもAさんも知っているとき。	均衡	中～ 低	△	△	○
③	登場人物はあなた、Aさん、Bさんです。あなたとBさんは同じゼミに所属しています。AさんからBさんを紹介してほしいと頼まれましたが、Bさんは今日のゼミに来ませんでした。Aさんから「Bさん、来週は来るかなあ？」と聞かれたときの回答について、選択肢からあてはまるものを選んでください。	Bさんが来週のゼミで発表が当たっている（来る可能性が高い）ことを、あなたは知っていて、Aさんは知らないとき。	不均 衡	高	△ 容認性は低い	○ ダロウ類に 代用	△
④		Bさんが普段からゼミをさぼりがちである（来るかどうかははっきりしない）ことを、あなたは知っていて、Aさんは知らないとき。	不均 衡	中～ 低	△	△	○

# 3. 調査結果 —文末形式の確信度—

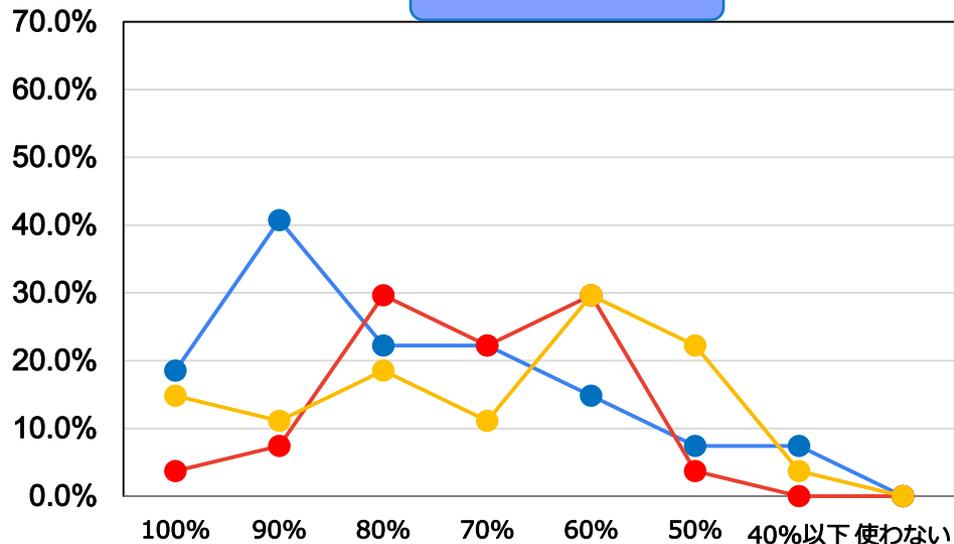
関東若年層



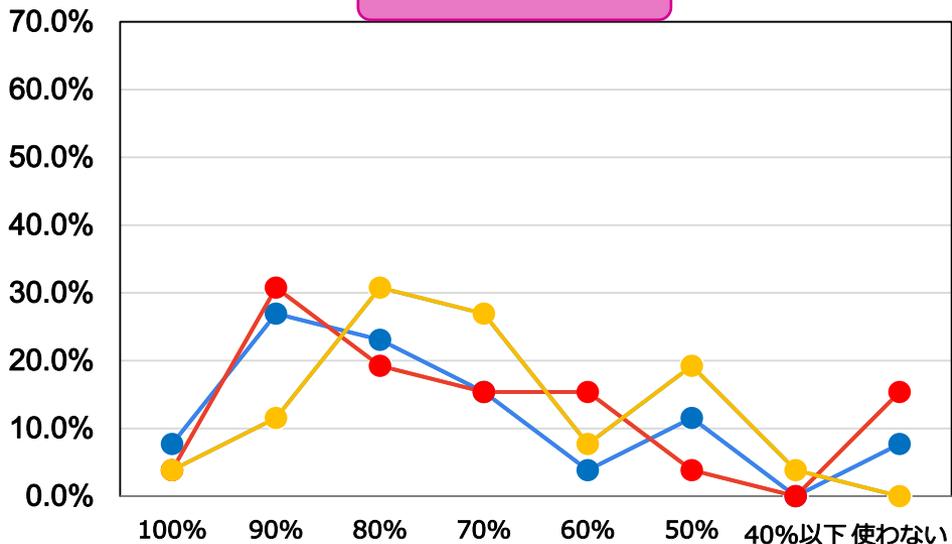
関西若年層



関東高年層



関西高年層



●だろ(う)/でしょ(う) ●と思う ●んじゃない?/んじゃね?

●やろう ●と思う ●んちゃう?

# 3.調査結果 ―場面による文末形式の選好性の異なり―

表中の数値は、全回答者の内それぞれの形式について「言う」と回答した人の割合。

回答者の世代		若年層				高年層			
		均衡		不均衡		均衡		不均衡	
話し手と聞き手の情報量の均衡性		均衡		不均衡		均衡		不均衡	
事態の実現可能性		高	低	高	低	高	低	高	低
関東	だろ(う)/でしょ(う)	◎	△	○	×	◎	△	△	×
	と思う	◎	×	●	△	○	×	◎	×
	んじゃない?/んじゃないね?	●	◎	○	○	◎	○	○	△
関西	やろ(う)	●	△	○	×	○	×	△	×
	と思う	○	×	●	△	△	×	○	×
	んちゃう?	●	◎	◎	○	●	○	△	△

[凡例] ●:80%以上, ◎:60%以上80%未満, ○:40%以上60%未満, △:20%以上40%未満, ×:20%未満

・webを用いたアンケート調査

[回答者] 関東：若年層92名／高年層27名 関西：若年層85名／高年層26名

[期間] 若年層：2021年12月 ， 高年層：2022年11～12月

# 4. 考察

## ● トオモウ類の地域差・世代差

① 情報均衡・可能性高 の場面で差▶ トオモウ類は **関東** で選択されやすい

トオモウの意味論的意味【不確定表示用法】より  
語用論的意味【意見の押し付けの緩和】を利用  
：ネガティブ・ポライトネス

①でのトオモウ類の選好性

関東若年層 > 関西若年層, 若年層 > 高年層

## ● 否定疑問類の使用の動態

従来	否定疑問類：〈推測〉の意味 ダロウよりも弱い推量を表す	FPJD時点では京都府にダロウ類 以外は見られない
今回	本調査の4場面：高水準で使用可能 さらに <b>可能性高 &gt; 可能性低</b>	今回の調査では否定疑問類もトオモウ類も使用される結果に

否定疑問類の推量的な場面での使用は広まっている

# 参考文献

- 安達太郎(1997)「「だろう」の伝達的な側面」『日本語教育』95,pp85-96,日本語教育学会
- 庵功雄(2009)「推量の「でしょう」に関する一考察—日本語教育文法の視点から—」『日本語教育』142,pp58-68,日本語教育学会
- 高木千恵(2005)「関西若年層にみられる標準語形ジャナイ(カ)の使用」『日本語の研究』1-2,pp.19-33,日本語学会
- 馮雁鴻(2019)「ダロウカの使用実態—学習者書き言葉コーパスを使用して—」『日本語／日本語教育研究』10,pp85-99.
- 船木礼子(2017)「推量表現形式の分布とその変化—地域共通形式への収斂と脱推量形式化—」,大西拓一郎編『空間と時間の中の方言—ことばの変化は方言地図にどう現れるか—』,pp106-127,朝倉書店
- 牧原功(2015)「文法のムード形式とポライトネス」,阿部二郎編『文法・談話研究と日本語教育の接点』,pp79-98,くろしお出版
- 松丸真大(2018)「関西方言における名詞・形容動詞述語否定形式ヤナイ・ヤアラヘン・トチガウの諸用法」,藤田保幸・山崎誠編『形式語研究の現在』,pp-443-462,和泉書院
- 三宅知宏(1995)「「推量」について」『国語学』183,pp86-76,日本語学会
- 森山卓郎(1992)「文末思考動詞「思う」をめぐって」『日本語学』8,pp105-116,明治書院